

## 10. 試験研究機関の再編と開かれた研究所をめざして

富山県農林水産総合技術センター  
木材研究所

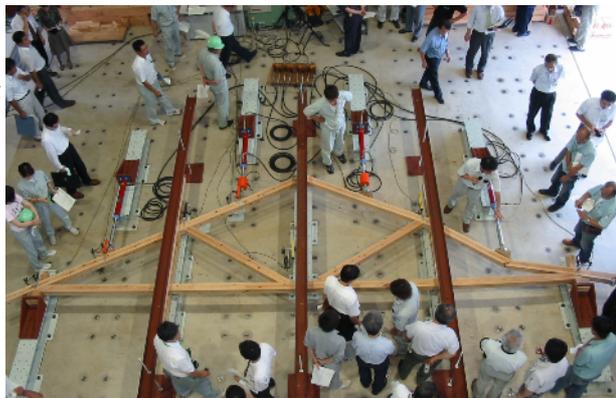
富山県では、平成20年4月に農林水産関係の試験研究機関の再編が行なわれ、新たに「農林水産総合技術センター」としてスタートしました。センターの組織体制は1部、7研究所となり、このうち林業関係の試験研究組織は、森林研究所及び木材研究所の名称となりました。この再編により、企画調整機能の一元化や連携強化を図り、今日的・分野横断的な課題に迅速かつ的確に取り組むこととしています。（詳しくは<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/>）

分野横断的な取り組みとして、2つ以上の研究所が連携して開発する研究予算枠が設けられ、木材研究所では、園芸研究所と連携し、平成20年度より木材の液化技術を活用した籾殻による被覆シートを開発する「廃材を利用した農林業被覆シートの開発」に取り組んでいます。また、センター研究成果発表会も11月に開催し、発表に対して農業、林業・木材産業、水産業や行政・普及サイドから活発な意見等が出されたところです。

一方、木材研究所では、センターの活動と並行して、開かれた研究所をめざし、研究成果の公表や木の良さのPRを積極的に行なうため、企業や業界団体と連携し公開実験やイベントを開催しています。

7月には、企業との共同研究により開発した「スギ材を用いた長スパン小屋トラス工法」の成果を、広く関係者に見学してもらうため、公開実験を実施しました。当日は、テレビ取材があり、実験の様子がニュースにも流されました。

また、10月には、昨年の本誌でも紹介しました「とやま木と住まいフェア2008」を開催しました。本研究所で開発した地震エネルギー吸収能力の高いパネル型耐振壁を用いた構造体と一般的な筋交いを入れた構造体を同時に振動させる実験を行い、揺れの比較を行なう等、木の良さに触れるだけでなく、木造住宅の安全性を体験できるイベントとなりました。



長スパン小屋トラス工法の公開実験



秋晴れのもと、賑わった「木と住まいフェア」